

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 1 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200296		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター広島長楽寺		
所在地	広島市安佐南区長楽寺一丁目24-17 (電話) 082-830-3731		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200296-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安芸区中野東4丁目11-13
訪問調査日	平成30年1月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様一人一人の気持ちや要望を傾聴共感するよう心がけている。ご本人の気持ちに寄り添い受け入れ、安心と安らぎを感じて頂く中で自然に馴染みの関係を築くよう心がけている。また、チームケアを重視し、アセスメント・ケアプラン・モニタリングのプロセスを全職員が共有した上で、入居者様の状況変化に合わせて尊厳のある馴染みの暮らしを支援している。また、当ホームは開所10年を超える事業所であり、職員においても3年以上勤続者が3割を超え、非常勤者においても稼働時間の多い社会保険加入の職員が多いことから、1日・月・季節・年を通して入居者と接し、繋がりのあるケアに取り組める事から馴染みの関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ニチイケアセンター広島長楽寺は、アストラムラインの長楽寺駅から、徒歩5分。近隣には、レストランや商店も多く、利便性がある。町内会に加入しており、回覧板により町内会の行事等、知る事ができ参加している。近隣の方から、新鮮な野菜が届けられる事もある。管理者は、団地内の清掃作業等にも参加して、地域の一員としての役割を果たしている。このような環境のもとで、ホームと地域との繋がりを大切にしながら、利用者と常に寄り添い支え合う生活により信頼関係を築いている。社是である「誠意・誇り・情熱」や経営理念等を毎朝、職員は唱和をして、運営やケアに活かしている。

ニチケアセンター 広島長楽寺(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念の下、「ほほえみ長楽寺の誓い」を設定し毎朝朝礼時に唱和し理念を共有している。利用者が地域の一員として穏やかに暮らせる様、各ユニットの目標1Fは「やさしい声かけ」、2Fは「明るい笑顔」を設定し、実践に取り組んでいる。	社是の下で、「ほほえみ長楽寺の誓い」を定め、毎朝朝礼時に唱和をして、全員で共有すると共に各ユニット毎に「やさしい声かけ」「明るい笑顔」を目標に掲げ、常に心掛け実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、新年会・地域一斉清掃など地域行事に参加すると共に日常的な挨拶や雑談など日頃の近所付き合いを大切にしている。また、災害時などは協力をお願いできるよう要請したり、ホームの消防訓練にも参加をお願いしている。	町内会に加入しており、地域行事にも積極的に参加している。ホームの見学会や敬老会等のお知らせを近所にポスティングしたりしている。地域の方がボランティアでフラダンスを披露して下さったり、かぼちゃや芋、白菜等をいただく事もある。回覧板も回り、良い関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今後地域のボランティアの方に出し物などを披露していただく機会を持つようし、利用者様と同じ時間を過ごして頂くことで認知症への理解や支援方法を自然に知っていただける機会になるのではと考える。また、共用型認知症通所介護サービスの指定を受けており、現在は利用者はない状態だが利用者を得ることで在宅でのご家族の介護負担の軽減へとつなげられたらと考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族・町内会役員や地域の方・民生委員・地域包括支援センター職員などを構成員として、2ヶ月に1回定期的に開催している。ホーム運営、活動状況、地域と交流状況・報告等を行い、ご意見や助言を頂き、開かれたグループホームを目指しサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、利用者家族・民生委員・包括支援センター職員・法人支店長・ホーム長・ユニットリーダーが参加して、活動状況、入居者状況報告、事故報告、ホームの体制、参加者の意見・質問等を受けて、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談や連絡・報告を行っている。救急搬送などの事故報告やインフルエンザなどの感染症発生の報告は事あるごとに行い、運営推進会議には開催案内をして参加をお願いし、議事録を定期的を送付している。	日頃から、相談、連絡、事故トラブルの報告等を行っており、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束を行う事態になった際は、関係者に速やかに連絡・相談し、同意を頂いた上で適切に行い、その後も解除に向けて毎月定期的に身体拘束廃止委員会にて検討を行う定めとなっている。	身体拘束に関する指針やマニュアルを備え、研修等により、すべての職員が、正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。日中は、玄関は開放しており、自由に入出入りできるようにしている。気軽に来訪出来る雰囲気作りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止研修を定期的実施し、理解浸透を図り法令順守に向けた取り組みを行っている。事例を取り上げ問題提起し話し合い、「しない」「させない」「みのがさない」をスローガンにし、意識の向上に努めている。また、管理者や会社は、職員と面談を適宜行い悩みなどを溜め込まないように留意している。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在1名の方が後見人制度を利用され、制度がスムーズに行えるよう支援していると共に、職員も実際に制度の必要性を知る機会となっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には事業所でのケアに対する取り組みや利用料金、起こりうるリスク等、また、利用者の状態の変化により契約解除に至る場合等を含み、詳しく丁寧に説明し同意を得るようにしている。また法改正や運営規程変更等による契約の内容に変更がおきるときも、運営推進会議での説明や説明会を設けたり、又は個別に説明をして同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、その時々不安や意見等は各ユニットで情報共有をして各ユニット毎で話し合いを行い、利用者本位の運営を心がけている。また、ご家族来訪時の会話やアンケート・意見箱などで、ご家族の意見要望は真摯に受け止め改善に努めている。	家族が、面会に来られた時や電話で話をした時等に意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。家族からの要望を受け、散歩等、対応している。又、ほほえみだよりに写真を掲載し、日頃の様子を見てもらうようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議・ユニット会議での研修を行うと共に、会議やミーティングの場で意見を述べられる体制を作っている。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、職員の意見や要望を聞くように心がけている。個別面談も必要に応じて行っている。	管理者と個人面談をしたり、全体ミーティング・ユニット・リーダーミーティングをした時に、積極的に意見や要望が出ている。主にケアに関しての事が多いが、意見を出す事で、スタッフのモチベーションアップに繋がっている。(レクレーションの内容検討や物品購入等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内のキャリアアップ制度の活用によりスタッフのやりがいや技能能力を身に付け一定基準の昇給制度がある。また資格手当や増額、時間常手当の増額、半休制度、子ども手当など、はたらきがいのある手当を拡充した。処遇改善手当を毎月、処遇改善一時金を年1回2月に支給。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修では、入社時の採用時～3ヶ月研修・6ヶ月研修(時給者含む)・管理者研修が定められており、ホーム内では日常的に学ぶ事を推進し、毎月のホーム会議等で各テーマを決めて勉強会を行っている。また、社内の他拠点が集まり介護技術研修や・おむつ研修・計画作成者研修・ケアマネ研修等のテーマ別の研修も定期的に行い、介護従事者としての質の向上を図っている。社外で開催される役立ちそうな研修情報もアナウンスし、なるべく多くの職員が受講するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は他のグループホームを訪問し見学する機会もあるが、他のグループホームとの交流会を持つことができなかった。他の事業所との交流や意見交換は大変参考になり事なので、今後は機会があれば積極的に参加してゆきたい。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談で生活状態・心身状態を把握するよう努め、本人の生活の場所である自宅やサービス先に伺い、必ず直接本人に会ってご本人の思いに向き合い、ご本人の不安を理解しようと努め、ご本人に受け入れられる様な人間関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者をとりまくご家族の状況など、これまでの経緯について聞くようにしている。ご家族が求めているものを理解し、どのような対応が出来るかを事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、ご本人やご家族の思い・状況を確認し、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら支援の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々や季節・年間を通して、ホームという家の中で働く職員と暮らす利用者様。日勤者・夜勤者と入れ替わりはあるものの、職員が支援するだけでなく、利用者様から教えを乞う場面もあり、共に笑い・共に嘆くときあり、自然に一つと暮らすもの同士の関係を築いているところがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、利用者を一緒に支えるためにご家族と相談話し合い、ご家族と同じような思いで支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前にも面会や電話の取次ぎなど予想される事の聞き取りを行い、友人・知人・親戚等との面会も自由に行って頂いている。一人一人の生活習慣を尊重しており、馴染みの人とは継続的な交流が出来るよう支援している。	本人が、これまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう外出支援を行なっている。又、年賀状を作成したいとの要望があれば支援を行ったり、美容院に家族と一緒にいかれたり等、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係や生活習慣を見極めた上で、リビングでの席を工夫したり、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	機会があれば、退去後の様子を電話で尋ねたり、必要に応じてご家族の相談や支援に努めている。また、退去されたご家族から相談や報告の電話を頂いたりする事がある。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式シートを活用し、入居時に家族や利用者様の要望や生活歴を把握し、ケアプランに反映させている。その後も日々の生活での言動から利用者の「思い」を察し、ミーティング・カンファレンス等で、情報を共有化し、可能な限り本人の意向に添った生活が出来るよう心がけている。	常に、本人の思いに関心を寄せる事が、思いや意向の把握に繋がるので、普段の会話の中や態度から意向把握に努めている。(新聞の購読・洗濯たみ等)又、本人の意思の把握が困難な場合は、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居後も折に触れご本人や家族から生活習慣を聴くなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録やミーティング、医療連携ファイル・連絡帳などで1日の様子や心身の状況の変化や連絡事項を申し送っている。又、生活のリズムの理解に努めると共に、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させている。また定期的にカンファレンスを開催し、課題の克服に向け活発に意見を交換し、それを元に介護計画を作成している。なを、状況変化に応じてその都度計画の見直しを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について皆で話し合い、取り組む事が大切なので、本人・家族の意見も聞き、定期的にカンファレンスを開催し、計画作成者・職員等が、話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に介護記録を作成し、身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉・出来事を記録し、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	問題が発生するとミーティングやカンファレンスで話し合い、利用者が安心して暮らせる様な支援が提供できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の方、民生委員、地域包括支援センター、消防署等地域の方々にご協力いただく中で、近隣のボランティアによる出し物の観覧や町内会行事に参加するように努め、地域の方々との交流を行っていききたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の希望があれば家族の協力のもと引き続き受診出来るよう支援している。ホームの協力医とかかりつけ医の情報の共有を支援し、スムーズに受診ができるよう心がけ、利用者の健康維持管理に努めている。	事業所の協力医の往診が、月2回あり、訪問看護師は、週1回定期訪問している。家族希望のかかりつけ医での医療を受けられるよう支援して複数の医療機関との関係を密にしている。又、歯科も希望があれば週1回、訪問歯科の治療を受けられるよう支援している。	

ニチケアセンター 広島長楽寺(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りやミーティング、情報共有目的の連絡帳等で、一人一人の状況を把握し、訪問看護師の定期訪問、その他体調の変化があったときも、相談・助言が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、病院関係者との情報交換・相談に努めている。また、退院時にもホームでの受け入れがスムーズに行くように医療機関から情報の収集に努めている。また、入院先に見舞いに行ったり、ご家族に様子を伺ったり、との情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を提示して説明し、事業所でできることできないことを了解していただくようにしている。必要な時期に家族・医師・看護師・職員が話し合いを重ねながら、方針に従って支援している。	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、契約時に本人・家族に説明を行い、方針を共有している。病状が重度化した場合、医療関係者や家族・職員等が、その都度話し合い、協力して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急救命の講習を受講を奨励している。応急手当の方法や緊急時取り決め等を研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防避難訓練を実施し、消防署にも指導いただいている。最近では土砂災害を想定した避難の取り決めや移動方法の課題を話し合っている。	年2回、消防署の指導の下で、避難訓練を実施している。又、近年は、土砂災害の対応も話し合っている。訓練は、夜間想定も行い、消防署員のアドバイスを受けている。地域の協力体制は、運営推進会議にて呼び掛けをしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に配慮した声掛けや「否定しない」対応に心がけている。個人情報保護理解度チェックテストを年1回実施し、個人情報管理については周知徹底に努めている。	自尊心を傷つけない環境への配慮や言葉遣い等、一人ひとりの尊厳を守るといった精神面の配慮をしている。個人情報の保護に対する対応は、周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者がご自身で出来る事を見つけ出し、本人のペースにあわせて声かけ、些細な事でも本人が決める場面を作り、自己決定する事の喜び・満足感へ導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自宅で過ごされていた時のように、一人一人のペースを尊重し、そのときの状態や環境に配慮しつつ、押し付けにならないように提案しながら、思いを汲み取り支援している。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している。	朝の整容(着替え・髭剃りなど)はご本人の好みに沿いながら整えられるよう支援している。自己決定が難しい方は温度調整に気をつけながら、職員と一緒に考えて入居者の気持ちに沿った支援が出来るようにしている。外出時にも季節や外出場所を考えて外出支援が出来るよう心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事メニューは偏りの無いよう、また、行事や季節を考慮しながら、利用者様個々の好みや嚥下・咀嚼を考慮したメニューや提供方法をしている。また、今年は栄養士の指導を受け、栄養摂取のアドバイスを聞いたがメニューや摂取カロリーは適切で問題は指摘されなかった。	食事が楽しみなものになるよう、対面キッチンから、ご飯の炊ける匂いや野菜を刻む音を聞きながら、会話も弾んでいる。手伝いの出来る人は、テーブル拭きや下膳を手伝っている。時には、家族が外食に連れ出している。ひな祭りやクリスマス会等の行事食も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取状態をチェック表に記録し、職員が情報共有し摂取量を確保出来るようにしている。またトロミ剤を使用したりキザミ食・ミキサー食等個人の状態に応じた食事ができるよう支援しており、自己で摂取が困難な方や食事が進まない方には個々に応じた介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きの声かけを行い、利用者の気持ちに配慮しつつ、能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンや習慣を把握し、尿パット等使用の方には出来る限り日中は下着に尿パットの使用で生活出来るよう支援し、声かけにより定期的にトイレでの排泄が出来るよう支援している。	トイレでの排泄を大切にしており、排泄チェック表を活用して、利用者の様子を察知し、声掛けをして、手を差し伸べ支援している。夜間も巡回しながら様子を見て、トイレ誘導もやっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者一人一人の排泄の有無の記録をしており、水分摂取・食事の工夫・体操等で体を動かし自然な排便が出来るように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の体調を確認し清潔が保てるように一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴の支援をしている。入浴が難しい方や、拒否がある方には方法を変えたり、ご家族にも協力頂いたりしながら、試行錯誤を重ね清潔を保つよう支援している	利用者一人ひとりの希望や体調を確認しながら、その方のペースに合わせて入浴出来るよう支援している。原則として週2回の入浴を楽しめるようにしている。入浴が難しい方には、職員が2人体制で入浴してもらったり、足浴や清拭等で、清潔保持を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1日の生活リズムを整えられるよう、一人一人の体調や希望等を考慮し居室やリビング・和室で自由にゆっくりと休息が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者全員の薬局発行の薬リストをファイルに整理し内容を把握できるようしている。また、服薬変更や内容変更の際は薬局からの説明(服用方法や注意事項など)を別途受け、受診記録や連絡帳に記録し、全職員が周知徹底している。服薬時は服薬担当者と服薬確認者の二人が確認の上、利用者に名前・日付・時間の確認をし、きちんと服薬出来ているか飲み込みまで確認している。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人の好みやホームの中での役割を考え、生活の中で役割や得意分野が生かせるよう考え支援している。その時その時に感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	隙間時間を活用し、利用者様の体調や天候を見ながら、気分転換に少しでも外気に触れていただくよう努力をしている。	職員体制が整う時には、車で花見に行ったり、買い物に出かけている。日常的には、本人の体調や天候を見ながら、散歩したり、ホームのイチジクの収穫を楽しんでいる。又、家族の面会時に外出している。	外出に十分な時間が取れていないので、今後天候や体調も考慮して個別対応も考え、外出する機会を増やされる事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはトラブルや不穩を招くことからホーム内でのご本人の現金の所持はして頂いていない。個人の買い物等、要望があったときにはご家族と相談して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば、ご家族に確認した上で電話が出来るよう支援している。手紙やり取りも出来るよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニットは安全を配慮したバリアフリー設計となっており、対面式キッチンと一体的になった開放的なリビングに落ち着いた和室も併設されており、懐かしい台所のおいや程よい大きさや明るさで過ごし易いスペースとなっている。浴室やトイレも使い易く配置されている。玄関や室内には絵画や手作りの飾りを配し、家庭的な雰囲気になっている。	共用空間であるリビングルームは、空調や音や照明等、十分な配慮がされており、壁面には、利用者の作品である習字や手芸品等が飾られ、家庭の延長を感じさせ、落ち着いた雰囲気がある。又、利用者にとって、それぞれお気に入りの場所で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室もあり、食堂のテーブルや椅子の他にソファやマッサージチェアやお気に入りのクッションやケットを置いたりして一人で過ごしたり利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれている。また、好みの作品や写真も飾られ掃除も行き届いており、利用者が自分の家として、それぞれ居心地よく安心して過ごせるスペースとなっている。	利用者が居心地よく自分らしく生活を送れるように、使い慣れたソファ・椅子・テレビ・チェスト・加湿器・シルバーカー・家族写真・装飾品等を持ち込み利用者が、安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子対応のバリアフリー設計で共有部分や浴室トイレ内に手すりを設置し、自立できるよう整備されており、利用者の安全確保と利用者を意識した配置（自室やトイレ等、場所が分かる様表示等に工夫）をしている。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念の下、「ほほえみ長楽寺の誓い」を設定し毎朝朝礼時に唱和し理念を共有している。利用者が地域の一員として穏やかに暮らせる様、各ユニットの目標1Fは「やさしい声かけ」、2Fは「明るい笑顔」を設定し、実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、新年会・地域一斉清掃など地域行事に参加すると共に日常的な挨拶や雑談など日頃の近所付き合いを大切にしている。また、災害時などは協力をお願いできるよう要請したり、ホームの消防訓練にも参加をお願いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今後地域のボランティアの方に出し物などを披露していただく機会を持つようにし、利用者様と同じ時間を過ごすことで認知症への理解や支援方法を自然に知っていただける機会になるのではと考える。また、共用型認知症通所介護サービスの指定を受けており、現在は利用者はない状態だが利用者を得ることで在宅でのご家族の介護負担の軽減へとつなげられたらと考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族・町内会役員や地域の方・民生委員・地域包括支援センター職員などを構成員として、2ヶ月に1回定期的に開催している。ホーム運営、活動状況、地域と交流状況・報告等を行い、ご意見や助言を頂き、開かれたグループホームを目指しサービスの向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談や連絡・報告を行っている。救急搬送などの事故報告やインフルエンザなどの感染症発生の報告は事あるごとに行い、運営推進会議には開催案内をして参加をお願いし、議事録を定期的に送付している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束を行う事態になった際は、関係者に速やかに連絡・相談し、同意を頂いた上で適切に行い、その後も解除に向けて毎月定期的に身体拘束廃止委員会にて検討を行う定めとなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止研修を定期的実施し、理解浸透を図り法令順守に向けた取り組みを行っている。事例を取り上げ問題提起し話し合い、「しない」「させない」「みのがさない」をスローガンにし、意識の向上に努めている。また、管理者や会社は、職員と面談を適宜行い悩みなどを溜め込まないように留意している。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在1名の方が後見人制度を利用され、制度がスムーズに行えるよう支援していると共に、職員も実際に制度の必要性を知る機会となっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には事業所でのケアに対する取り組みや利用料金、起こりうるリスク等、また、利用者の状態の変化により契約解除に至る場合等を含み、詳しく丁寧に説明し同意を得るようにしている。また法改正や運営規程変更等による契約の内容に変更がおきるときも、運営推進会議での説明や説明会を設けたり、又は個別に説明をして同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、その時々不安や意見等は各ユニットで情報共有をして各ユニット毎で話し合いを行い、利用者本位の運営を心がけている。また、ご家族来訪時の会話やアンケート・意見箱などで、ご家族の意見要望は真摯に受け止め改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議・ユニット会議での研修を行うと共に、会議やミーティングの場で意見を述べられる体制を作っている。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、職員の意見や要望を聞くよう心がけている。個別面談も必要に応じて行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内のキャリアアップ制度の活用によりスタッフのやりがいや技能能力を身に付け一定基準の昇給制度がある。また資格手当や増額、時間帯手当の増額、半休制度、子ども手当など、はたらきがいのある手当を拡充した。処遇改善手当を毎月、処遇改善一時金を年1回2月に支給。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修では、入社時の採用時～3ヶ月研修・6ヶ月研修(時給者含む)・管理者研修が定められており、ホーム内では日常的に学ぶ事を推進し、毎月のホーム会議等で各テーマを決めて勉強会を行っている。また、社内の他拠点が集まり介護技術研修や・おむつ研修・計画作成者研修・ケアマネ研修等のテーマ別の研修も定期的に行い、介護従事者としての質の向上を図っている。社外で開催される役立ちそうな研修情報もアナウンスし、なるべく多くの職員が受講するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は他のグループホームを訪問し見学する機会もあるが、他のグループホームとの交流会を持つことができなかった。他の事業所との交流や意見交換は大変参考になり事なので、今後は機会があれば積極的に参加してゆきたい。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談で生活状態・心身状態を把握するよう努め、本人の生活の場所である自宅やサービス先に伺い、必ず直接本人に会ってご本人の思いに向き合い、ご本人の不安を理解しようと努め、ご本人に受け入れられる様な人間関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者をとりまくご家族の状況など、これまでの経緯について聞くようにしている。ご家族が求めているものを理解し、どのような対応が出来るかを事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、ご本人やご家族の思い・状況を確認し、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら支援の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々や季節・年間を通して、ホームという家の中で働く職員と暮らす利用者様。日勤者・夜勤者と入れ替わりはあるものの、職員が支援するだけでなく、利用者様から教える場面もあり、共に笑い・共に嘆くときあり、自然に一つところで暮らすもの同士の関係を築いているところがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、利用者と一緒に支えるためにご家族と相談話し合い、ご家族と同じような思いで支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前にも面会や電話の取次ぎなど予想される事の聞き取りを行い、友人・知人・親戚等との面会も自由に行って頂いている。一人一人の生活習慣を尊重しており、馴染みの人とは継続的な交流が出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係や生活習慣を見極めた上で、リビングでの席を工夫したり、利用者同士の関係が上手いように職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	機会があれば、退去後の様子を電話で尋ねたり、必要に応じてご家族の相談や支援に努めている。また、退去されたご家族から相談や報告の電話を頂いたりする事がある。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式シートを活用し、入居時に家族や利用者様の要望や生活歴を把握し、ケアプランに反映させている。その後も日々の生活での言動から利用者の「思い」を察し、ミーティング・カンファレンス等で、情報を共有化し、可能な限り本人の意向に添った生活ができるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居後も折に触れご本人や家族から生活習慣を聴くなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録やミーティング、医療連携ファイル・連絡帳などで1日の様子や心身の状況の変化や連絡事項を申し送っている。又、生活のリズムの理解に努めると共に、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させている。また定期的にカンファレンスを開催し、課題の克服に向け活発に意見を交換し、それを元に介護計画を作成している。なを、状況変化に応じてその都度計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に介護記録を作成し、身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉・出来事を記録し、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	問題が発生するとミーティングやカンファレンスで話し合い、利用者が安心して暮らせる様な支援が提供できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の方、民生委員、地域包括支援センター、消防署等地域の方々にご協力いただく中で、近隣のボランティアによる出し物の観覧や町内会行事に参加するように努め、地域の方々との交流を行っていききたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の希望があれば家族の協力のもと引き続き受診出来るよう支援している。ホームの協力医とかかりつけ医の情報の共有を支援し、スムーズに受診ができるよう心がけ、利用者の健康維持管理に努めている。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りやミーティング、情報共有目的の連絡帳等で、一人一人の状況を把握し、訪問看護師の定期訪問、その他体調の変化があったときも、相談・助言が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、病院関係者との情報交換・相談に努めている。また、退院時にもホームでの受け入れがスムーズに行くように医療機関から情報の収集に努めている。また、入院先に見舞いに行ったり、ご家族に様子を伺ったり、との情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を提示して説明し、事業所でできることできないことを了解していただくようにしている。必要な時期に家族・医師・看護師・職員が話し合いを重ねながら、方針に従って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急救命の講習を受講を奨励している。応急手当の方法や緊急時取り決め等を研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防避難訓練を実施し、消防署にも指導いただいている。最近では土砂災害を想定した避難の取り決めや移動方法の課題を話し合っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に配慮した声掛けや「否定しない」対応に心がけている。個人情報保護理解度チェックテストを年1回実施し、個人情報管理については周知徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者がご自身で出来る事を見つけ出し、本人のペースにあわせて声かけ、些細な事でも本人が決める場面を作り、自己決定する事の喜び・満足感へ導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自宅で過ごされていた時のように、一人一人のペースを尊重し、そのときの状態や環境に配慮しつつ、押し付けにならないように提案しながら、思いを汲み取り支援している。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容(着替え・髭剃りなど)はご本人の好みに沿いながら整えられるよう支援している。自己決定が難しい方は温度調整に気をつけながら、職員と一緒に考えて入居者の気持ちに沿った支援が出来るようにしている。外出時にも季節や外出場所を考えて外出支援が出来るよう心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事メニューは偏りの無いよう、また、行事や季節を考えながら、利用者様個々の好みや嚥下・咀嚼を考慮したメニューや提供方法をしている。また、今年は栄養士の指導を受け、栄養摂取のアドバイスを聞いたがメニューや摂取カロリーは適切で問題は指摘されなかった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取状態をチェック表に記録し、職員が情報共有し摂取量を確保出来るようにしている。またトロミ剤を使用したりキザミ食・ミキサー食等個人の状態に応じた食事ができるよう支援しており、自己で摂取が困難な方や食事が進まない方には個々に応じた介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きの声かけを行い、利用者の気持ちに配慮しつつ、能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンや習慣を把握し、尿パット等使用の方には出来る限り日中は下着に尿パットの使用で生活出来るよう支援し、声かけにより定期的にトイレでの排泄が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者一人一人の排泄の有無の記録をしており、水分摂取・食事の工夫・体操等で体を動かし自然な排便が出来るように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の体調を確認し清潔が保てるように一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴の支援をしている。入浴が難しい方や、拒否がある方には方法を変えたり、ご家族にも協力頂いたりしながら、試行錯誤を重ね清潔を保つよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1日の生活リズムを整えられるよう、一人一人の体調や希望等を考慮し居室やリビング・和室で自由にゆっくりと休息が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者全員の薬局発行の薬リストをファイルに整理し内容を把握できるようしている。また、服薬変更や内容変更の際は薬局からの説明(服用方法や注意事項など)を別途受け、受診記録や連絡帳に記録し、全職員が周知徹底している。服薬時は服薬担当者と服薬確認者の二人が確認の上、利用者にも名前・日付・時間の確認をし、きちんと服薬出来ているか飲み込みまで確認している。		

ニチケアセンター 広島長楽寺(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人の好みやホームの中での役割を考え、生活の中で役割や得意分野が生かせるよう考え支援している。その時その時に感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	隙間時間を活用し、利用者様の体調や天候を見ながら、気分転換に少しでも外気に触れていただくよう努力をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはトラブルや不穩を招くことからホーム内でのご本人の現金の所持はして頂いていない。個人の買い物等、要望があったときにはご家族と相談して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば、ご家族に確認した上で電話が出来るよう支援している。手紙やり取りも出来るよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニットは安全を配慮したバリアフリー設計となっており、対面式キッチンと一体的になった開放的なリビングに落ち着いた和室も併設されており、懐かしい台所のおいしさや程よい大きさと明るさで過ごし易いスペースとなっている。浴室やトイレも使い易く配置されている。玄関や室内には絵画や手作りの飾りを配し、家庭的な雰囲気になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室もあり、食堂のテーブルや椅子の他にソファやマッサージチェアやお気に入りのクッションやケットを置いたりして一人で過ごしたり利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれている。また、好みの作品や写真も飾られ掃除も行き届いており、利用者が自分の家として、それぞれ居心地よく安心して過ごせるスペースとなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子対応のバリアフリー設計で共有部分や浴室トイレ内に手すりを設置し、自立できるよう整備されており、利用者の安全確保と利用者を意識した配置（自室やトイレ等、場所が分かる様表示等に工夫）をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

ニチイケアセンター 広島長楽寺(1F)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

ニチイケアセンター 広島長楽寺(2F)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター広島長楽寺

作成日 平成 30 年 1 月 20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	入居者様があまり外の空気に触れる機会が来ていない。	定期的に外気に触れる機会を作る。	入居者様の体調や天候を見ながら人員の厚い時間や隙間の時間を作り外気に触れて頂く。	3ヶ月
2	19	定期的にご家族へほほえみだよりを発行できていない。	3ヶ月に1回以上ほほえみだよりを発行する。	行事やレクリエーションの写真を撮影しほほえみだよりを定期的に発行する。	3ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。